

防災講話 ～阪神・淡路大震災25年に向けて～

今年で阪神・淡路大震災から25年が経過しました。震災以後も日本各地で地震、台風、集中豪雨など災害が随所で発生し、大きな被害をもたらしました。今や日本各地で避難訓練を含んで防災学習は当たり前、にやにやふざけ半分で行う人などいなくなりました。

春に避難訓練を行った際、話したことを覚えているでしょうか？「南海トラフ地震、近い将来に起こると思う人？」ほぼ全員が手を挙げましたね。「では明日にでも起こると思う人？」ほとんど手は挙がりませんでした。なぜでしょう？結局、人はのんびりと都合のいいように考えてしまう生き物なのだそうです。起こると思っけていても、今か、明日か？と言われれば、「まさか」と判断してしまうようで、それが避難を遅くする原因と言われています。君たちは中学生。岩手県釜石市で東日本大震災の時、幼・小の子どもたちの多くを避難誘導したり、高校生と力を合わせて避難所で頑張ったのが中学生であったように、君たちは「助けられる人」から「助ける人」になっていかななくてはなりません。そのためにはまず自分が生き残る知恵をつける必要があります。

災害は必ずやってきます。それに立ち向かい、救える命を救えるよう、これからは学習に励んでいきましょう。

最後に阪神・淡路大震災に話を戻します。高校時代一緒に剣道を頑張り、大将を務めてきた副キャプテンが震災で亡くなりました。神戸のタクシー会社の無線係をしていて、夜勤を終え、疲れて仮眠室で仮眠を取り始めて1時間足らず。あの地震が襲い、ビルはだるま落としのように崩れました。その日勤務でなかったら、夜勤でなかったら…。随分複雑な思いをしたことを覚えています。

簡単に命をやり取りする、怒りを覚えるニュースをたくさん聞きます。「死にたい」や「死ね」という言葉を簡単に使う人もいます。しかし「死にたくない、死にたくない」と思いながら亡くなる人がどれだけいることでしょうか。皆さんもどうか命だけは大切にしてください。それが残された者の使命なのです。

それでは阪神・淡路大震災をはじめ、災害で亡くなった方々の御霊に黙祷を捧げます。全員起立。黙祷。黙祷なおれ。座ってください。これで先生からの講話を終わります。